Ⅱ過程評価

(16)※個人が“出来ている” “出来ていない” ではなく、事業所全体がどうなのかをご記入ください

1.利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供

第34回　事業所評価　提出期限　令和3年3月26日（金）　　氏名

（1）利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成

トル番	タイトル	目番	項目	出来ている	ほぼ出来ている	出来ていない事が多い	全く出来ていない	コメント	改善策	営推進委員様からのアドバイ
①	利用者等の一日の生活リズムに着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	8	7			利用者一人ひとりにプランがあり、評価・分析を行っています。 一人ひとりの生活リズムに合わせた送迎時間を設定するなど対応が出来ている カンファレンスを行い、評価・分析出来ています 利用者の生活・現状・要望等アセスメント出来ている。自宅での生活が維持出来るようにしている 食事の進みが悪い方の食事方法などの意見交換も出来ている 利用者一人一人のプランに沿って実行し、評価も行えている 利用者様の定期的なカンファレンスにより、分析し、対応出来ている その時に合わせ、適宜修正し、対応出来ている	利用者の一日の生活リズムに合わせつつ、悪循環は助長しないようにしながらご本人さんの意向に沿っていく。	
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせなどが行われている	7	8			看護師・介護士両方の視点からの意見交換し、細かく情報を共有し行えていると思う。 カンファレンスやミーティングなどで、意見交換出来ている 会議やカンファレンス、日々の情報交換などで出来ている 常に変わる利用者に対し、相談しながら介護している 介護・看護の両面からのアセスメントは実施出来ている。ただ、看護側の意見が多い 医療に関わることがあれば、看護師任せのこともありますが、意見交換は出来ている	ショートカンファレンスで意見交換が出来ている。定期的なケアカンファレンスも開催できている。介護士・看護師両方が参加できるように今後も調整していく。	
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている	7	8			立位保持や手引き歩行など自宅での生活に影響が出ないようにケアの統一を図っている リハビリなど必要な方に情報を共有し行えていると思う。 評価・分析をもとに心身機能の維持・回復に軸足を置いた計画の作成が出来ている 在宅での生活を中心に考え、自宅の延長上として変わらぬ生活が出来るよう支援出来ている 個別や集団など、その方に合わせたリハビリ等出来ている 生活レベルダウンにならない為のリハビリの実施は、日々一定していない様に感じる PTと相談しながらリハビリを行っています 入浴後など薬などを塗布し、回復に努めています	長寿の郷のセラピストに指導いただきながら個別のリハビリも実施できている。（全員ではないが）引き続き継続する。骨折や様々な病気などで体調が悪くなりレベルダウンを一旦された方も一時的な処遇と回復したときの処遇を適宜話し合いながら変更していく。都度朝礼で話し合うことを継続していく。職員間でのリハビリやレク（体操）等の強化が必要	
		14	重度化しても医療依存度を高めすぎないよう、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための「未来志向型」の計画の作成が志向されている。	5	8	2		過去の既往歴などや疾病を鑑み、個別の疾患に応じたリスク管理が出来ている。 既往歴や疾病の情報により、機能低下にならない様に計画が作成されています 多（他）職種と連携しながら取り組めている リスク管理は各利用者に対応し出来ているが、未来志向型の計画はされていない様に感じる ほぼ出来ていると思うが、リスク管理の取り組みに職員間ではバラつきがあるように思われる 既往症で入院の可能性や、その兆候があれば、主治医に相談し、早期対応を行っています 緊急対応表など前もって作成したり、薬情等も管理し、その都度、その時に合った対応出来ている 全職員が全利用者の既往歴などを把握は出来ていない。	①水分量の管理を怠るとどのような悪い結果がでるかなど疾患に基づいた良い循環、悪い循環のどちらもイメージできるように取り組みの意味を理解していく。 ②基礎となる取組みを継続していった上でさらに上位の欲求に応えていく。リスク管理は未来予知が出来るのかどうかで予防は出来る。その意識付けを強化していく事が必要	